

# アンティグア・バーブーダ概況

*Antigua and Barbuda*



2020年7月

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

## 目 次

I	概観	2
2	1. 一般情報	5
	2. 略史	5
	a. 独立以前	6
	b. 独立以降	7
II	政治と外交	7
	1. 概観	8
	2. 最近の政情	9
	3. 行政	9
	4. 立法	9
	5. 政党	9
	6. 司法	10
	7. 防衛・安全保障	10
	8. 外交	10
III	経済	11
	1. 概況	11
	2. 近年の経済状況	11
	3. 産業	12
	a. 観光業	12
	b. 農業	12
	4. 金融・財政	13
	5. 貿易	13
	6. 経済統合	14
	7. 対日貿易	14
IV	日本との関係	16
	1. 政治・外交	16
	2. 経済協力	16
	3. 要人往来	17
	4. 文化・人的交流	17
	5. 在留邦人	18
V	旅行者のために	19
VI	主要連絡先	20
	参考資料 1 閣僚名簿	21
	参考資料 2 祝祭日	24

(注) この資料に掲載された情報は 2020 年 6 月の時点で調査したものです。

# I 概観

## 1 一般情報

国名	アンティグア・バーブーダ	日本										
面積	総面積：約 440 km <sup>2</sup> アンティグア島：約 280 km <sup>2</sup> バーブーダ島：約 161 km <sup>2</sup>	約 38 万 km <sup>2</sup>										
位置	北緯 17 度 ～17 度 4 分 西経 61 度 40 分～61 度 50 分	東経 123～154 度 北緯 20～ 46 度										
時差	日本との時差は－13 時間											
気候	熱帯海洋性 乾期：12～4 月、雨期：5～11 月 ハリケーンシーズン：7～10 月 年平均気温：26.6℃ <sup>1</sup> （2019 年） 年間降水量：約 832.612mm <sup>2</sup> （2018 年）	（東京）（2019 年） <sup>3</sup> 8 月：28.4℃, 1 月：5.6℃ 年間降水量：1874.0 mm										
人種・人口	97,000 <sup>4</sup> 人（2019 年） <sup>5</sup> 人口増加率：1.2%（2019 年） 人種構成 <sup>注 3)</sup> ： <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>アフリカ系</td> <td>87.3%</td> </tr> <tr> <td>混合人種</td> <td>4.7%</td> </tr> <tr> <td>ヒスパニック</td> <td>2.7%</td> </tr> <tr> <td>白人系</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3.6%</td> </tr> </table>	アフリカ系	87.3%	混合人種	4.7%	ヒスパニック	2.7%	白人系	1.6%	その他	3.6%	1 億 2614.4 万人 （2019 年 12 月） <sup>6</sup>
アフリカ系	87.3%											
混合人種	4.7%											
ヒスパニック	2.7%											
白人系	1.6%											
その他	3.6%											
国旗	深紅の旗地に上部の左右の頂点と下底の中心を結んだ「勝利」を象徴する V 字型の三角形を置き、この三角形を上から黒、青、白の帯で切り、黒の帯には金色の太陽を配しています。金色は新時代の夜明け、深紅は国民の活力、青は希望、そして黒は国土とアフリカ系国民をそれぞれ表しています。											
主要都市	首都：セントジョンズ（St. John's） バーブーダ島主要都市：コドリントン（Codrington）											
1 人当たり GDP/GNI	1 人当たり GDP（米ドル）16,727.0 1 人当たり GNI 15,890 （世界銀行 2018 年）											

<sup>1</sup> [http://www.antiguamet.com/Climate/CLIMATE\\_DATA/TemperatureCoolidge.txt](http://www.antiguamet.com/Climate/CLIMATE_DATA/TemperatureCoolidge.txt)

<sup>2</sup> [http://www.antiguamet.com/Climate/CLIMATE\\_DATA/RainfallAntigua.txt](http://www.antiguamet.com/Climate/CLIMATE_DATA/RainfallAntigua.txt)

<sup>3</sup> 気象庁：

[http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_s1.php?prec\\_no=44&block\\_no=47662&year=2019&month=&day=&view=a1](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=44&block_no=47662&year=2019&month=&day=&view=a1)

<sup>4</sup> <https://data.un.org/en/iso/ag.html>

<sup>5</sup> The World Bank：<http://databank.worldbank.org/data/reports.aspx?source=world-development-indicators>

<sup>6</sup> 総務省統計局：<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

社会	1人当たりの所得も高く、他の旧英国領と比べても豊かな印象。
宗教	大半（90%以上）がキリスト教徒
文化・習慣	サッカーとクリケットが盛んで、英国の古い伝統を受け継ぎながらも、米国の影響とアフリカの伝統を残した文化。
教育	英国に倣った教育制度。5～16歳までの12年間は義務教育

（出所）

注1) The World Bank :

<http://databank.worldbank.org/data/reports.aspx?source=world-development-indicators>

注2) 総務省統計局 : <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/>

注3) CIA、The World Factbook : <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/ac.html>

## 2. 略史

アンティグア・バーブーダ史	
西暦	出来事
1493	コロンブス、アンティグア「発見」
1632	英国の植民地となる
1667	アンティグアが正式に英国領となる
1685	アンティグアの砂糖プランテーション拡大の為、バーブーダが賃借される
1860	アンティグアとバーブーダの統合
1870	バーブーダのリース期間終了
1930 代	砂糖産業の不振
1938	英国審議会設立
1943	ベア・バード、アンティグア・バーブーダ代表となる
1951	普通選挙導入
1956	内閣制度の導入
1958	英領西インド連邦に加盟（同連邦は 62 年解体）
1966	ロンドンにて憲法制定議会開催
1967	英国の自治領となる
1981	11 月 1 日独立
1984	総選挙：ALP（アンティグア労働党）ベア・バード政権
1989	総選挙：ALP ベア・バード政権
1994	総選挙：ALP レスター・バード政権
1999	総選挙：ALP レスター・バード政権
2004	3 月総選挙：UPP（統一進歩党）スペンサー政権
2009	3 月総選挙：UPP スペンサー政権
2014	6 月総選挙：ALP ガストン・ブラウン政権
2018	3 月総選挙：ALP ガストン・ブラウン政権（～現在）

### a. 独立以前

1493 年コロンブスによってアンティグアが「発見」され、16 世紀から 17 世紀にかけてスペイン、フランスによって植民地化が試みられましたが、乾燥した気候やカリブ族の抵抗によって成功せず、1632 年にサー・トーマス・ワーナー（Sir Thomas Warner）により英国の植民地となりました。以後アンティグアは英領リーワード諸島の一部として英国の植民地行政下にありました。1860 年にアンティグアとバーブーダは統合され、1958 年に英領西インド諸島連邦が設立されると、他の東カリブ諸島とともにこれに編入されました。1962 年に同連邦が解体すると、1966 年のロンドンにおける制憲議会を経て、1967 年 2 月 17 日に英国の自治領となり、1981 年 11 月 1 日に独立を果たしました。

## b. 独立以降

独立前の 1956 年以來、1971 年からの 5 年間を除き、ベア・バード首相率いるアンティグア労働党（ALP）が政権を維持してきましたが、1992 年の大衆デモやゼネストを前に、1993 年に行われた党首選挙で勝利した息子のレスター・バードに党首の座を譲り、政界から引退しました。後継首相の座に納まったレスター・バードは 1994 年の総選挙でも勝利を収め、カリブ地域でも異例の親子二代 6 期にわたる長期政権を維持しましたが、2004 年 3 月の総選挙の結果、独立以降初めて統一進歩党（UPP）のスペンサー政権に交替しました。

## II 政治と外交

独立年月日	1981年11月1日	
政 体	英国女王エリザベス2世を元首とする立憲君主国。 政治制度は英国式のウェストミンスター制を採用。 王権の代行は総督 総督：ロドニー・ウィリアムス	
立法府	上 院	下 院
議席数	17 議席	17 議席
任期	5 年	
政党議席数	首相から11名（バーブーダ在住者1名含む）、野党党首から4名、バーブーダ議会から1名、総督から1名推薦され、総督により任命	アンティグア・バーブーダ労働党 (ABLP) 15 統一進歩党 (UPP) 1 バーブーダ人民運動 (BPM) 1  普通選挙で各選挙区から1名ずつ選出される議員により構成
主要政党	二大政党制 アンティグア・バーブーダ労働党 (ABLP)：党首 ガストン・ブラウン（首相） （ABLP:2014年にALPから党名変更） 統一進歩党 (UPP)：党首 ハロルド・ロベル	
行 政 府	【中央】議院内閣制 下院優位性 【地方】バーブーダには地方政府としてバーブーダ議会を設置	
司法制度	◆ 治安判事裁判所 (Magistrate's Court) ◆ 東カリブ最高裁判所 (Eastern Caribbean Supreme Court) ・ 高等裁判所 (High Court) ・ 控訴裁判所 (Court of Appeal) ◆ 英国枢密院 (Privy Council)	
防 衛	国防軍（陸軍・沿岸警備隊）	

### 1. 概観

独立以来 ALP のバード親子 2 代 6 期にわたる長期政権を維持していましたが（1971 年からの 5 年間を除く）、バード政権は政治腐敗や汚職の噂が絶えず、政権末期には与野党の得票率も拮抗するようになりました。2003 年 7 月、バード首相（当時）の政治運営に反発した与党 4 議員の離党などで政権は衰弱し（1 議員はその後復党）、2004 年 3 月の任期満了

に伴う総選挙で野党 UPP が圧勝し、スペンサー新政権（当時）が誕生しました。

スペンサー政権はバード政権の政策を見直すことをもって誕生し、汚職対策や不正疑惑に対する捜査強化を標榜し、旧バード政権との差異を強調しましたが、政策そのものは旧政権を継承していました。2005 年、スペンサー政権は消費税を再導入しましたが、同時期に石油及び食品の価格が上昇する等、国民は生活が圧迫され、政策面の失敗で国民の不興を買いました。更に、公式入札委員会の不正疑惑、ハディード首相府付国務大臣（当時）が政治献金で閣僚に選出されたとの疑惑など、政権内部の汚職疑惑及び説明責任不足に対する国民の批判の声が高まりました。野党アンティグア労働党(ALP)は、同年 11 月、首都セントジョンズで4千人を超える大規模な政府批判デモを行い、政治は混乱しました。

その後スペンサー政権は、好調な観光業とともに貧困削減や財政の健全化を推進することで経済成長を実現し、2009年3月の総選挙でも勝利を収めました。しかし、2008年の金融危機の影響により経済は不況に陥りました。また、中国の資金援助による中国企業の発電プラントの建て替え工事に関する疑惑が浮上し、国民の間ではUPP政権に対する不信感が広がりました。さらに同政権は、閣僚の汚職、収賄疑惑に悩まされ、経済再建に失敗し、経済成長率及び失業率の悪化を招き、国民の支持を失っていきました。

2014年6月12日に総選挙が実施され、ALPが17議席中14議席を獲得し圧勝、10年ぶりに政権交代が行われ、ブラウン党首はALP史上初のバード親子以外で首相に就任した人物となりました。

## 2. 最近の政情

2018年3月21日に総選挙が実施され、ALPからABLPに党名を変更した与党が17議席中15議席で勝利を収め、ブラウン首相が再選されました。ブラウン首相は、約16か月前倒し総選挙を実施したことについて、投資に対する安定性の提供並びに進行中及び今後始動する開発事業の保護であると主張しましたが、事業進捗への懸念やバーブーダ島土地収用法改正の意図が背景にあったと言われていています。投票率が過去最低であったこと及び与野党の得票率に大幅な隔たりがなかったことから、ABLPが圧倒的な支持を獲得したのではなく、国民の政治への期待薄及び強力な野党の不在が勝因との見方もあります。

汚職撲滅への取組が期待されていたブラウン政権は、2017年10月、英国人から不当に金銭を受け取った疑いで英国国家犯罪対策庁(NCA)に拘束されたマイケル元観光・経済開発投資・エネルギー大臣を即座に罷免しましたが、新内閣発足時に同氏を投資・貿易大臣に任命したため、国民からは厳しい声もあがり、2018年5月15日、同大臣は別の汚職に関与した疑惑が取り沙汰され、大臣を辞職しました。

2017年9月のハリケーン直撃によって壊滅状態に陥ったバーブーダ島は、ほぼ全ての島民が中央政府の助成金で運営されるバーブーダ議会により雇用されているとも言われています。アンティグア島民の一部はこれに不満を感じ、バーブーダ島の復興に際しては外国資本投入による経済促進・多角化が必須であるとの意見も出てきており、政府のバーブーダ島



への対応も国民の関心事項のひとつです。

ブラウン政権は、i)道路建設・ホテル建設・港湾事業の促進、ii)汚職に対する取組、透明性及び説明責任の追求、iii)犯罪取締の強化、iv)住宅事業の活性化、v)青少年の能力強化、vi)土地価格の引き下げを公約に掲げています。

新型コロナウイルス対策に関しては、20年3月中旬に空港を閉鎖し、同月末に非常事態宣言を発出し、夜間外出禁止、娯楽施設の閉鎖等が行われましたが、その後徐々に制限が緩和されています。6月から国境も再開されました。当国は観光産業への依存度が高く、空港閉鎖やクルーズ船の停止は、同国経済に深刻な影響が出ると予想されています。

### 3. 行政

#### a. 中央

議院内閣制で、下院の多数党の党首が総督により首相に任命され、政権を担当します。首相は上下両院議員の中から閣僚を指名し、これを総督が任命します（参考資料 1 アンティグア・バーブーダ内閣閣僚メンバー参照）。任期は5年です。

#### b. 地方

憲法により、バーブーダには地方政府としてバーブーダ議会が設置されています。

### 4. 立法

議会は、上院（17議席）および下院（17議席）からなる二院制で、実質的な権限は下院に集中する下院優位制です。下院は普通選挙により各選挙区より1名ずつ選出され、上院は総督、首相、野党党首、バーブーダ議会の推薦を受け、総督により任命されます。

### 5. 政党

ALPとUPPが実力、支持ともに二分してきたが、現在は、ABLPが17議席中15議席を占め、野党UPPが1議席、バーブーダ人民運動（BPM）が1議席。

- ◆ アンティグア・バーブーダ労働党（Antigua and Barbuda Labour Party : ABLP、与党）

党首 ガストン・ブラウン（Gaston Browne）

- ◆ 統一進歩党（United Progressive Party : UPP、野党）

党首 ハロルド・ロベル（Harold Lovell）

- ◆ バーブーダ人民運動（Barbuda People's Movement : BPM、野党）

党首 トレバー・ウォーカー（Trevor Walker）

### 6. 司法

アンティグア・バーブーダの司法制度は(1)簡易裁判所である治安判事裁判所（Magistrate's Court）、(2)東カリブ最高裁判所（Eastern Caribbean Supreme Court）(3)英国枢密院（Privy Council）で構成されています。東カリブ最高裁判所下には、東カ

リブ諸国機構（OECS）の各加盟国にある高等裁判所（High Court）と、セントルシアにある控訴裁判所（Court of Appeal）があり、高等裁判所は重犯罪を、控訴裁判所は高等裁判所や治安判事裁判所等からの上告を受理しています。また、最終審である英国枢密院は、控訴裁判所からの上告を受理します。英国枢密院の出した見解は法的な意見にすぎませんが、アンティグア・バーブーダでは憲法の慣例によりこれに拘束力を与えています。なお、英国枢密院の死刑廃止ガイドラインを不服とする英連邦カリブ諸国はカリブ司法裁判所（Caribbean Court of Justice: CCJ）の設立に合意され、2005年4月に開所されましたが、アンティグアは国内法の改正が進んでおらず、未だCCJは同国の最終審として認められていません。

## 7. 防衛・安全保障

小規模ながら独自の国防軍（陸軍125人及び沿岸警備隊45人）を有し、東カリブ諸国の地域安全保障システム（RSS）に加盟しています。アンティグアには、米国空軍の追跡基地が置かれています。

## 8. 外交

英連邦の一員として欧米諸国と密接な関係にある他、英語圏カリブ諸国で構成するカリコム（カリブ共同体）、東カリブ諸国で構成される東カリブ諸国機構（OECS）及びカリブ諸国連合（ACS）の一員として、小国間の結束力の強化を図っています。WTO、FTAAといった貿易自由化の動きの中にあって、小規模経済国の利益をいかに守っていくかが最大の外交課題になっています。近年米国のカリブ地域における影響力が低下するに伴い、中国、キューバ、ベネズエラ等が同地域における存在感を高めています。中国は、中国－中南米・カリブ諸国共同体（CELAC）閣僚会合の開催及び継続的な要人往来を実施しているほか、2018年に同国最大級の投資案件となるセントジョンズ港の再開発計画事業を始動しました。加えて、クリケット・スタジアム、病院、国際空港ターミナルの建設等大規模経済協力案件を通じて二国間関係を緊密化させています。また、2017年9月のハリケーン・イルマの際、中国は国連開発計画（UNDP）を通じた支援（家屋修復）等、多額の協力を行っています。キューバは医療協力、ベネズエラはペトロカリブによる石油供給等、各種社会プロジェクトの実施によって、アンティグア・バーブーダとの関係強化に努めています。また、北朝鮮とも外交関係を有しています。

### Ⅲ 経済

#### 1. 概況

アンティグア・バーブーダの経済は、古来は砂糖産業および綿を主体とした農業が主産業でしたが、1960年代の砂糖及び綿の国際価格下落を受けて観光業を中心とする経済構造に移行しました。1970年代以降、製造業発展の試みや農業再生プログラム等が実施されましたが、現在その勢いは見られず、1980年代初頭に開始されたオフショア金融部門が1990年代以降伸びていましたが、近年世界的な傾向として、欧米大手銀行が、コルレス銀行関係（Correspondent Banking Relationships）（注：国際決済のための為替業務代行契約を結んだ取引銀行先との関係）の解消や契約に一部制約を設ける動きにあり、カリブ地域は世界で最もこの動きによる影響を受けている地域です。また2018年にはEUによる税務に関する非協力的な司法組織リストのグレーリストに掲載されましたが、現在は解除されています。

経済の約70%を観光業が占めており、欧米諸国からの観光客の増減やハリケーン等の自然災害など、外的要因による影響を受けやすい脆弱な経済構造を有しています。長年にわたり抱えている債務問題(日本を含む)等財政上の課題に対する取り組みが行われており、政府歳入増大を目的として2013年に投資による市民権取得プログラム（Citizenship by Investment Programme: CIP）を開始しました。

#### 2. 近年の経済状況

アンティグア・バーブーダの経済は観光業に大きく依存しています。2018年は、近年継続する観光業の回復及びホテル事業を含む観光施設への投資により、3.5%成長する見通しです。また、燃料価格調整と継続的な国際商品価格安により、2016年及び2017年のインフレは低い水準を保つとともに、財政バランスは改善しています。

2017年9月のハリケーン・イルマによりバーブーダ島は壊滅的な被害を受け、一時全島民が島外へ避難しました。復興は進んではいるものの、未だにテント生活を強いられているものもいます。

アンティグア・バーブーダは、カリブ地域内の航空会社であるLIAT航空の拠点の1つであり、経営困難に陥っている同航空の立て直しに積極的に参画しています。

19年9月に、西インド諸島大学(UWI)の4番目のキャンパスがアンティグアに開校しました。

20年のアンティグアの経済成長率は6.5%（国連中南米カリブ地域経済委員会予測）と高い予測が出されていましたが、同年初より発生した新型コロナウイルスの影響により、クルーズ船などの観光産業が大きな打撃を受け、経済全体にも深刻な影響が出ると見られています。

表1 GDP総額（単位：億米ドル）

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
GDP 総額	18.90	19.98	20.97	22.35	23.48	25.83	27.67*

(\*推定値 出所：IMF World Economic Outlook Database April 2020)

表2 GDP 成長率 (単位：%)

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
成長率	-0.6	3.8	3.8	5.5	3.1	7.4	5.3*

(\*推定値 出所：IMF World Economic Outlook Database April 2020)

表3 インフレ率 (消費者物価指数：年間平均) (単位：%)

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
インフレ率	1.059	1.089	0.969	-0.489	2.432	1.210	1.380*

(\*推定値 出所：IMF World Economic Outlook Database April 2020)

### 3. 産業

#### a. 観光業

主産業は観光業であり、クルーズ船寄港地の1つです。労働者の4分の1が観光業セクターで働いているとも言われています。2019年の総観光客数は105万5,635人、そのうちクルーズ船観光客数は73万4,002人であり、クルーズ船が観光業の核です<sup>7</sup>。クルーズ船寄港数及び乗客数は、2016年まで過去10年間以上ほぼ横ばいでしたが、2017年から前年比約130%増(79万2,861人)と増加傾向にあり、総観光客数の増加に貢献するとともに観光業の活性化に繋がりました。一方、空路では欧米諸国からの観光客が主であり、2019年は米国から12万0,278人(2018年：10万4,103)、次いで英国から7万7,975人(同：7万0,607人)、カリブ諸国から3万4,856人(同：3万2,254人)、カナダから3万8,733人(同：3万8,087人)が訪れました。総観光客数の増加とは反対に空路による観光客数は減少しており、それに伴い、観光客の総消費額は、前年比93%の15億257万ECドル(約615億4,000万円)と落ち込むなど、クルーズ船観光客の消費拡大が観光業成長の課題です(東カリブ中央銀行統計)。更に、2020年の新型コロナウイルス発生は、観光業に深刻な影響を与えています。

#### b. 農業

周辺のカリブ諸国は観光業と農業により経済を支えている国と比較し、アンティグア・バーブーダの農業は小規模であるため、輸入農業産品への依存度は高く、自国農産品は主に国内向けにのみ生産販売されています。その中で、ブラック・パイナップルと海島綿は外貨獲得における手段の一つです。ブラック・パイナップルは一部をノルウェーに輸出し

<sup>7</sup> <https://www.eccb-centralbank.org/statistics/tourisms/comparative-report>

ています。海島綿に関しては日本と取引をしています。1980年に設立された協同組合西印度諸島海島綿協会との貿易協定は重要な取引機会を提供する一因になっています。

#### c. 投資による市民権プログラム

アンティグア・バーブーダの市民権プログラムでは、18歳以上の申請者が国家開発基金への寄付、不動産投資、ビジネス投資を通じて市民権の獲得が可能となり、131の国と地域に対して、査証免除の渡航が可能となります。

2014年12月より、政府は原則、アフガニスタン、イラン、イラク、北朝鮮、ソマリア、イエメン国籍からの申請を受領しないことを決定しました。しかし、これらの国籍を保有しつつも、カナダ、米国、英国の永住権を保有する適正な申請者に対しては、その申請を許可しています。

#### 4. 金融・財政

カリブ諸国機構（OECS）内で通貨統合（東カリブ通貨機構（ECCU））が実現しており、通貨は東カリブ中央銀行が発行する東カリブドル（ECドル）を使用しています。（為替相場は1米ドル=2.7ECドル固定）。

OECS諸国はECCUの財政政策として、金融危機の後、経済の構造改革及び短・中期間な持続的成長を促進させるため、財政赤字及び公的債務の削減等を目的とした安定化プログラムを導入しました。

2008年の金融危機の後、アンティグア・バーブーダは慢性的な財政難に見舞われており、公的債務の割合が非常に高く（表4）、政府収入を債務返済に充当する財政運用が行われ、新事業への積極的な投資や長期的な財政計画が実現されていません。政府は限られた財源の中で継続的に資金繰りに努めていますが、債務問題は大きな課題です。CIPからの歳入増は財政に対する圧力を軽減していますが、CIPは外的要因に脆弱であり、潜在的に不安定であることから、IMFは同プログラムに大きく依存する経済構造を改善し、永続的に公共財政の改善に繋がる調整に取り組むよう助言しています。

他方、2018年3月20日、ブラウン首相は、前政権下でIMFから債務調整支援として借り入れていた1億1,850万米ドルの貸付金を完済したと発表しました。

表4 公的債務割合対GDP比（単位：％）

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
債務割合	95.791	104.575	100.293	87.628	90.556	89.463	90.002*

(\*推定値 出所：IMF World Economic Outlook Database Oct 2019)

#### 5. 貿易

アンティグア・バーブーダの貿易は、恒常的に輸入総額が輸出総額を大きく上回っており、貿易収支は大きく入超です。

表5 輸出入総額（単位：億 EC ドル）

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019
輸出	0.62	0.74	0.69	0.56	0.70	1.01
輸入	14.90	12.49	12.90	14.96	18.86	18.55

（出所：東カリブ中央銀行）

表6 主要貿易相手国（地域）別貿易実績（2018年）

	輸出		輸入	
	国名	構成比（%）	国名	構成比（%）
1	米国	22.4	米国	42.8
2	アラブ首長国連邦	17.8	日本	12.5
3	EU	14.3	EU	10.2
4	ドミニカ国	11	トリニダード・トバゴ	5.2
5	セント・マーティン	6.9	中国	5

（出所：WTO Trade Profiles）

## 6. 経済統合

カリコム（カリブ共同体）に加盟し、他のカリコム加盟国と共に、カリコム単一市場・経済(CSME)を推進しており、バハマ、ハイチ及び英領モンセラットを除くカリコム加盟国間(12か国)では単一市場(CSM)が2006年に開始されました。域内からの輸入は、原産地証明書が発行された場合は無関税です。単一経済(CSE)については早期の開始を目指していますが、早期の実現は難しいとされています。

カリコム及びカリブ諸国連合(ACS)を通じて、南米南部共同市場(メルコスール)、中米統合機構(SICA)等の中南米経済との幅広い連携も進めています。また、1951年に発足した米州機構(OAS)にも加盟していますが、2011年に中南米・カリブ諸国共同体(CELAC)が発足し、OASから米国及びカナダを除いた全ての中南米諸国(33か国)が加盟し、域内での政治・経済・社会・文化の側面の統合を長期目標に掲げています。

さらにカリコムとして、対ベネズエラ貿易投資協定、対コロンビア貿易経済技術協力協定、対ドミニカ共和国自由貿易協定、対キューバ貿易経済協力協定、対コスタリカ自由貿易協定に署名している他、対カナダ貿易開発協定を締結しています。

またOECSは、域内の往來自由化を開始し、現在さらなる経済統合を目指しています。既に通貨統合を達成しており、各国間の経済格差も小さいことから、カリコムに比べOECS統合の実現性は高いといわれています。

## 7. 対日貿易

対日貿易は恒常的に輸入額が輸出額を大きく上回っています。2018年は、日本への輸出はなく、日本からの輸入品は主に自動車です。

表7 対日貿易（2019年）（単位：千円）

対日輸出総額	3,074	対日輸入総額	2,040,207
主な輸出品	精密機器類 1,846  電気計測機器 388	主な輸入品	輸送用機器 1,596,315 照明器具 6,370 紙類及び同製品 462

（出所：財務省貿易統計、国別総額表及び国別概況品別表）

#### IV 日本との関係

##### 1. 政治・外交

日本は1981年11月1日に独立したアンティグア・バーブーダを同6日付で承認しました。翌1982年10月4日に外交関係を樹立し、1984年6月14日に在トリニダード・トバゴ日本国大使が信任状を捧呈、大使館（在トリニダード・トバゴ大使館兼轄）が設置されました。アンティグア・バーブーダ側は、1997年7月初代駐日大使（本国常駐）を任命し、1997年5月に駐日名誉領事館を開設、2000年6月に一時閉館した後、2004年3月に再開しています。

捕鯨問題に関しては、アンティグア・バーブーダは1982年にIWCに加盟しました。当初は強固な反捕鯨国でしたが、現在は我が国の海洋生物資源の持続可能な利用の立場を強く支持している国の一つです。

##### 2. 開発協力

日本のアンティグア・バーブーダに対する開発協力は、水産無償資金協力と技術協力が中心です。水産無償資金協力では、1997年度以降、7件（計57.68億円）を実施した他、1998年度にハリケーン・エミリーの被害に対する緊急援助（785万円）、2017年9月にはハリケーン・イルマの被害に対する緊急援助（400万円）を実施しました。2010年度からは草の根人間・安全保障無償資金協力が開始され、現在までに7件が実施されました。また、2017年度には経済社会開発無償資金協力により、ハリケーン災害に対応するための防災機材供与（2.2億円）、2018年度には同無償資金協力により、水産業の発展を図るための水産関連機材供与（2.0億円）を決定しました。技術協力では1987年度以降、128人の研修員を我が国に受け入れており、1997年度以降、水産や下水道等の専門家を中心に12人（広域専門家を含む）を派遣しました。また、2009年度からはカリコム諸国を対象としたカリブ地域における漁業・水産業にかかる開発・管理マスタープラン開発調査を3年間実施したのち、2013年度から2018年度までOECSの6か国を対象としたカリブ地域における漁民と行政の共同による漁業管理プロジェクトを実施しました。

（参考：水産無償資金協力）

1997年度	セントジョンズ水揚・流通施設建設計画	（12.80億円）
2000年度	零細漁業復興計画（1/2）	（8.57億円）
2001年度	零細漁業復興計画（2/2）	（7.98億円）
2003年度	水産センター建設計画（1/2）	（1.68億円）
2004年度	水産センター建設計画（2/2）	（7.53億円）
2009年度	バーブーダ島零細漁業施設整備計画	（13.28億円）
2015年度	水産関連機材整備計画	（5.84億円）

（参考：ノン・プロジェクト無償資金協力）

2015年度	経済社会開発計画（防災機材）	（1.00億円）
--------	----------------	----------



2016年度	経済社会開発計画(海水淡水化装置)	(2.00億円)
2017年度	経済社会開発計画(防災機材)	(2.20億円)
2018年度	経済社会開発計画(水産機材)	(2.00億円)

### 3. 要人往来

(往訪)

2006年6月	金子恭之農水大臣政務官
2008年6月	木村仁外務副大臣
2015年6月	宇都外務大臣政務官
2018年5月	佐藤正久外務副大臣
2019年1月	小野寺五典衆議院議員

(来訪)

2000年11月	ハンフリーズ貿易・商業・消費者問題大臣(日・カリブ閣僚レベル会議)
2003年5月	バード農業・国土・漁業大臣(日本鯨類研究所による招聘)
2004年6月	コート財務大臣(無償資金協力の契約署名のため訪日)
2004年12月	サミュエル農水大臣(無償資金協力の契約署名のため訪日)
2005年6月	リバプール駐日大使(鯨類の持続的利用代表者会合)
2006年5月	スペンサー首相兼外相、ラベル観光航空相等 (海外漁業協力財団による招聘)
2006年5月	マサイヤ農業担当国務大臣、リバプール駐日大使 (鯨類の持続的利用代表者会合)
2007年2月	マサイヤ農業担当国務大臣、リバプール駐日大使(IWC正常化会合)
2008年1月	リバプール駐日大使(信任状捧呈)
2008年4月	マサイヤ農業担当国務大臣
2010年9月	リバプール駐日大使(第2回日・カリコム外相会議)
2014年4月	マサイヤ司法省付国務大臣
2014年11月	グリーン貿易・商業・産業・スポーツ・文化・国家的祝祭大臣 (第4回日・カリコム外相会議)
2016年10月	マイケル・ブラウン教育科学技術相 (第13回国際科学技術関係大臣会合)
2019年10月	ウイリアムス総督夫妻(即位の礼出席)

### 4. 文化・人的交流

文化事業としては、2000年に国際交流基金事業「江戸風・独楽ワークショップ」を実施しました。人的交流としては、平成20年度の外交官日本語研修に1人、平成21年度～同26年度JETプログラムで計3人、平成21年度～令和元年度若手外交官・行政官招へいで計7人が、アンティグ

ア・バーブーダから来日しています。

2020年東京オリンピック(21年に延期)のアンティグア・バーブーダのホストタウンは、鹿児島県与論町で、既に交流が行われています。

令和元年秋の外国人叙勲で、ダベン・ジョセフ・アンティグア・バーブーダ首相府開発担当大使に長年の功績を称え、旭日中綬章が授与され、令和2年1月に総督府で授賞式が行われました。

#### 5. 在留邦人

2020年5月現在の在留邦人数は5人です。

V 旅行者のために

通貨・両替	<p>単位：EC\$（東カリブ・ドル）          US\$1=EC\$2.7 で原則固定。相場制を用いています。          紙幣：ECS\$5、10、20、50、100          硬貨：ECS\$1、1、2、5、10、25¢          EC ドルへは、銀行やホテルで両替可          US ドルもほとんどの場所で使用可</p>
電話	<p>アンティグア・バーブーダの国番号：1-268</p> <p>アンティグア・バーブーダにかける場合          1-268+相手先電話番号（7桁）</p> <p>アンティグア・バーブーダからかける場合          国際電話：011（*）+国番号（日本の場合 81）+最初のゼロを除いた電話番号          * 国番号が1の地域〔北米・カリブ等〕は「011」不要</p>
電圧	<p>電圧：230 ボルト、周波数：60 ヘルツ          プラグの形状：A タイプおよび B タイプ（日本と同じ）</p>
観光情報	<p>Antigua and Barbuda Tourism Authority  <a href="http://www.visitantiguabarbuda.com/">http://www.visitantiguabarbuda.com/</a>          Antigua Hotel &amp; Tourism Association  <a href="http://www.antiguahotels.org/">http://www.antiguahotels.org/</a>          Antigua and Barbuda Department of Tourism  <a href="http://www.antigua-barbuda.org/">http://www.antigua-barbuda.org/</a></p>
交通手段	<p>島内の交通手段として、ミニバス及びタクシーがある。タクシーにはメーターがなく、行き先によって料金が決まっています。</p>
治安	<p>治安は回復傾向にあるが、人口比の犯罪件数は高く、沿岸対策の脆弱性から違法銃器、薬物が蔓延しており、銃器等を使用した凶悪事件の発生があり、また、外国人旅行者の犯罪被害も報告されていることから、犯罪の対象になりやすい華美な服装は裂け、携行品への注意を怠らず、夜間の外出や閑散とした場所への立ち入りは避ける等の細心の防犯対策が必要です。</p>

## VI 主要連絡先

警察	☎ 999 / 911 / 462-0125
救急車	☎ 999 / 911 / 462-0251
消防署	☎ 999 / 911 / 462-0044
国際空港 V.C.バード国際空港	☎ 484-2300
航空会社 ・カリビアン ・LIAT ・アメリカン航空 ・英国航空 ・エア・カナダ	☎ (1-800) 744-2225 ☎ 480-5582 ☎ (1-800) 744-0006 ☎ (1-800) 247-9297 ☎ 462-1147
在トリニダード・トバゴ日本国大使館 (アンティグア・バーブーダを管轄)	5 Hayes St.、 St. Clair、 Port of Spain、 Trinidad and Tobago、 W.I. ☎ (1-868) 628-5991

(電話番号はアンティグア・バーブーダからかける場合の番号)

## アンティグア・バーブーダ閣僚名簿

(2018年3月組閣)

2020年7月現在

### 1 閣僚

(ABLP: アンティグア・バーブーダ労働党)

(1)	首相兼財務・企業統治・官民連携大臣 Prime Minister and Minister of Finance, Corporate Governance and Public Private Partnerships	ガストン・ <u>ブラウン</u> The Honourable Gaston BROWNE	下院議員 ABLP
(2)	司法長官兼法務・公共安全・労働大臣 Attorney General and Minister of Legal Affairs, Public Safety and Labour	ステドロイ・ <u>ベンジャミン</u> The Honourable Steadroy BENJAMIN	下院議員 ABLP
(3)	上級大臣兼公益事業・民間航空・エネルギー Senior Minister and Minister of Public Utilities, Civil Aviation and Energy	ロビン・ケンワース・モン トゴメリー・ <u>イヤールウッド</u> The Honourable Sir Robin Kenworth Montgomery YEARWOOD	下院議員 ABLP
(4)	保健・健康・環境大臣 Minister of Health, Wellness and the Environment	モルウィン・モーゴ ーソン・ <u>ジョセフ</u> The Honourable Molwyn Morgorson JOSEPH	下院議員 ABLP
(5)	外務・国際貿易・出入国管理大臣 Minister of Foreign Affairs, International Trade and Immigration	エバリー・ポール・ <u>チェット・グリーン</u> The Honourable Everly Paul Chet GREENE	下院議員 ABLP
(6)	社会変革・ブルーエコノミー大臣 Minister for Social Transformation and Blue Economy	アティル・ディーン・ <u>ジョナス</u> The Honourable Athill Dean JONAS	下院議員 ABLP

(7)	観光・経済開発大臣 Minister of Tourism and Economic Development	ヘンリー・チャールズ・フ エルナンデス The Honourable Henry Charles FERNANDEZ	下院議員 ABLP
(8)	情報・報道通信・情報技術大臣 Minister of Information, Broadcasting Telecommunications and Information Technology	メルフォード・ウォルター・ニコラス The Honourable Melford Walter NICHOLAS	下院議員 ABLP
(9)	教育・科学・技術大臣 Minister of Education, Science and Technology	マイケル・シャーウィン・ブラウ ン The Honourable Michael Sherwin BROWNE	下院議員 ABLP
(10)	農業・漁業・バーブータ島問題大臣 Minister of Agriculture, Fisheries and Barbuda Affairs	サマンサ・マーシャル The Honourable Samantha MARSHALL	下院議員 ／女性 ABLP
(11)	公共事業大臣兼財務・コーポレート・ガバナンス省付国務大臣 Minister of Works and Minister of State in the Ministry of Finance and Corporate Governance	レノックス・ウェストン The Honourable Lennox WESTON	下院議員 ABLP
(12)	住宅・土地・都市再開発大臣兼法務・公共安全・労働省付国務大臣 Minister of Housing, Lands and Urban Renewal and Minister of State in the Minister of Legal Affairs, Public Safety and Labour	マリア・ヴァネッサ・ブラウ ン The Honourable Maria Vanessa BROWNE	下院議員 ／女性 ABLP
(13)	スポーツ・文化・国家的祝祭・芸術大臣 Minister of Sports, Culture, National Festivals and the Arts	ダリル・シルベスター・マ シュー The Honourable Daryll Sylvester MATTHEW	下院議員 ABLP

（当館注：閣議には首相、大臣及び司法長官が出席し、国務大臣及び政務官は推薦によって出席します。上級大臣は顧問的な地位を有し、通常、各大臣より高位にあります（憲法第70条及び外務省の見解）。）

参考資料 2 : アンティグア・バーブーダ祝祭日 (2020年)

1月 1日	NEW YEAR' S DAY	元旦
4月 10日	GOOD FRIDAY	グッドフライデー
4月 13日	EASTER MONDAY	イースターマンデー
5月 4日	LABOUR DAY	労働者の日
6月 1日	WHIT MONDAY	ウィットマンデー
8月 3日	CARNIVAL MONDAY	カーニバルマンデー
8月 4日	CARNIVAL TUESDAY	カーニバルチューズデー
11月 1日	INDEPENDENCE DAY	独立記念日
12月 9日	VERE CORNWALL BIRD SNR. DAY	ベア・バード・デイ
12月 25日	CHRISTMAS DAY	クリスマス
12月 26日	BOXING DAY	ボクシングデー



当館管轄国と日本の貿易関係（2019年全期）

	アンティグア・バーブーダ	ドミニカ国	グレナダ	セントクリストファー・ネービス	セントルシア	セントビンセント	トリニダード・トバゴ	ガイアナ	スリナム
対日輸入総額	2,040,207 (1,952,872)	908,788 (823,199)	913,435 (1,011,447)	1,027,435 (709,223)	1,453,949 (1,404,382)	512,562 (859,042)	17,500,559 (16,398,551)	6,535,155 (5,596,838)	8,852,932 (7,456,479)
主要輸入品目	輸送用機器 1,596,315 照明器具 6,370 紙類及び同製品 462	自動車 619,964 繊維二次製品 65,140 照明器具 21,894	自動車 810,966 外衣類 2,826	自動車 831,383 繊維二次製品 64,331	自動車 1,256,836 プラスチック製品 32,375 医薬品 32,097	自動車 459,894 ゴム製品 3,324 プラスチック製品 675	自動車 13,617,137 ゴム製品(タイヤ・チューブ) 157,488 石油及び同製品 64,166	輸送用機器 3,993,725 金属製品 130,228 プラスチック 8,231	自動車 7,240,792 ゴム製品(タイヤ・チューブ) 253,423 プラスチック製品 16,611
対日輸出総額	3,074 (683)	78,754,39,104 (39,104)	2,080 (1,181)	1,591 (3,266)	1,522 (2,784)	229,753 (311,510)	(14,429,794)	905,398 (545,575)	633,925,738,8 93 (738,893)
主要輸出品目	精密機器類 1,846 電気計測機器 388	下着類 59,218 電気機器 3,073 蒸留酒 993	カカオ豆 856	セーター類 1,591	アルコール飲料 1,522	まぐろ 224,791	有機化合物 6,718,995 非鉄卑金属くず 119,223 カカオ豆 21,119	非鉄金属鉱 859,995 生きた動物 27,007 アルミニウム鉱 13,738	魚介類 603,908 木材 25,364
対日貿易収支	-2,037,133	-830,034	-911,355	-1,025,844	-1,452,427	-282,809	-10,556,376	-5,629,757	-8,219,007

<単位>1,000円 / <出典>財務省貿易統計: 国別総額表, 国別概況品別表( )内 2019年総額